

一般社団法人 協力隊を育てる会 御中

## 小さなハートプロジェクト報告書

本報告書や写真等は原則として公開するものとし、一般社団法人協力隊を育てる会が広報等に使用することに同意し、下記のとおり報告します。

2017年度2次隊 職種 公衆衛生 派遣国 マラウイ 出身県 福島県

氏名 猪狩 尚史 (ふりがな いがり なおふみ )

1. プロジェクト名 マラウイの田舎の乳幼児健診会場に屋根を作ろうプロジェクト		
2. プロジェクト概要 (準備や実施の期間などを記入)		
期 間	実 施 内 容	主たる担当
2019年4月	プロジェクト申請	猪狩尚史
5月	協力隊を育てる会と修繕施工方法の相談 JIAC 専門家からのアドバイスによる補強工事に伴う、任地大工との打ち合わせと追加費用見積書取り付け。	猪狩尚史 Binford Kasonda
6月6日	プロジェクト採択	
7日	ヘルスワーカー、ビレッジヘッドマンと修繕着工会議を実施	Binford Kasonda
8日	支援金の換金	猪狩尚史
10日	修繕材料買い出し	Binford Kasonda
14日	ドア枠と窓枠を作製 ヘルスポスト修繕開始	任地大工と
30日	木トラス、棟桁、母屋桁設置、モルタル固定	修繕作業員
7月11日	ヘルスワーカーと追加修繕作業会議	猪狩尚史
12日	トタン屋根設置	任地大工と
13日	ベンチ作製	修繕作業員
31日	床のモルタル施工	
8月4日	トタン屋根妻側のモルタル固定	任地大工と
9日	窓の仮固定	修繕作業員
14日	乳幼児健診で仮使用	ヘルスワーカー
15日	ドアの仮固定	Binford Kasonda
25日	窓の取り付け	任地大工と
29日	ドアの取り付け	修繕作業員
9月1日	窓の取り付け	任地大工と
9月3日	修繕工事終了	修繕作業員
9月10日	乳幼児健診で使用開始	Binford Kasonda

### 3. プロジェクト進捗詳細

#### 進捗状況①

##### ●タイトル (25 文字程度)

修繕着工会議を実施

##### ●詳細説明 (500 文字程度)

2019 年 6 月 7 日

地区担当ヘルスワーカーが声をかけ、ホレラ地区を構成する村のビレッジヘッドマン達と修繕着工会議をホレラ小学校で実施した。このプロジェクトの概要を説明し、日本から支援予算金額を発表、今後の施工期間、大工と修繕作業員を決定した。

完成は7月末を目指すことにした。



#### 進捗状況②

##### ●タイトル (25 文字程度)

修繕途中経過状況と施工アドバイス

##### ●詳細説明 (500 文字程度)

2019 年 7 月 1 日

木トラス、棟桁、母屋桁の設置、ドア枠と窓枠の設置が完了した。協力隊を育てる会に進捗状況の報告をすると、JICA 専門家のアドバイスをいただいたため、大工と修繕作業員に伝言し、取り入れてもらった。土煉瓦は、井戸のある別の場所で作っており、乳幼児健診日には、参加する母親たちも運搬を手伝ってくれた。



#### 進捗状況③

##### ●タイトル (25 文字程度)

トタン屋根の設置と床の追加工事  
の状況

##### ●詳細説明 (500 文字程度)

2019 年 7 月 12 日

修繕工事は順調で、トタン板の3山ごとに釘を打ち付け固定強度を上げ、トタン屋根の設置が完了した。

2019 年 8 月 4 日

地域での冠婚葬祭がたびたび重なり、工期に遅れが生じてしまった。しかし、責任者の Binford Kasonda と話し合い、出来る限り早期の完成を目指した。週末には、両妻側にレンガを乗せ、モルタルで固定できた。

2019 年 8 月 15 日

外側のドアを取り付けした。また、窓板を取り付ける予定だったが、大工が窓作製の見積額に蝶番を含めておらず、しかも、蝶番を購入するのを忘



れていたため仮固定した。修繕に必要な物品で他にも購入忘れが無いか確認し、蝶番と窓用のかんぬきを追加で購入することにした。

2019年8月29日

内側のドアと窓の取り付けを実施。

2019年9月1日

窓の取り付けを実施した。安全対策も万全になった。

2019年9月3日

責任者、大工、修繕作業員と共に最終点検を実施し、修繕工事がすべて終了した。

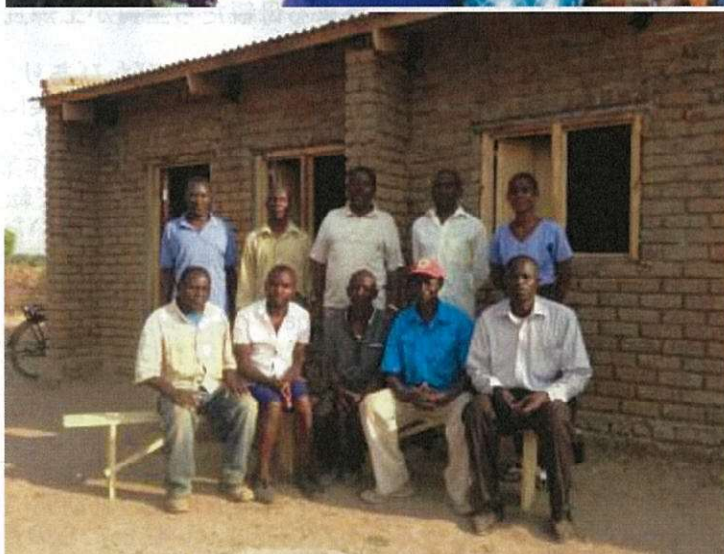
2019年9月10日

修繕作業終了後、屋内での乳幼児健診が可能となり、集まった母親たちもとても喜んでいた。

2019年9月11日

地区担当ヘルスワーカーが声をかけ、ホレラ地区を構成する村のビレッジヘッドマン達と修繕工事完了報告会をヘルスポストで実施した。

協力隊を育てる会に全員が感謝しており、警備係も決め、定期的にヘルスポストをチェックしながら地域健康のために大切に使用してくれこととなった。



#### 4. プロジェクト成果 (500文字程度)

屋根の修繕工事は、JICA 専門家のアドバイスを取り入れ、屋根を支える木トラスを2m間隔で設置、それをモルタルで固定した。屋根となるトタン板を固定する釘の量を多くし、ドアや窓を取り付けることで、屋内に入る風を防ぎ、ヘルスポストの外側からの風も、内側に入り込んでくる風の影響も受けることなく、再び屋根が吹き飛ばされることの無いよう、強度を高めて施工することができた。

随時、アドバイスを伝えることで、現地の大工や修繕作業員も理解を示してくれて、現地大工の最大限の技術と努力で修繕作業にあたってくれた。またプロジェクト責任者の Binford Kasonda も毎回の修繕作業に足を運び、現場監督役も担ってくれた。

建物自体も頑丈になり、ドアや窓にもかんぬきや鍵を取り付けることで防犯対策もとれたため、ベンチ15脚を追加で作成することができた。

完成後の乳幼児健診では、全員が屋内で天候に左右されない健診と予防接種を実施することができた。母親たちも、修繕されたヘルスポストにとっても喜んでいて。

また、9月の乳幼児健診では、他の地区のヘルスワーカー達もホレラ地区のヘルスポストを一目見ようと応援に駆けつけてくれた。



## 5. 感想・苦労した点・今後の課題等

今回、小さなハートプロジェクトに申請させていただき、多くの方から支援をいただきました。友人知人からは、「顔の見える国際支援ができるので喜んで！」と二つ返事で協力していただきました。

申請にあたり、JICA マラウイ事務所ボランティア調整員の皆さんの後押し、協力隊を育てる会の熊野様の調整支援、土木専門の土井様、建築専門の笠井様からの技術的なアドバイスも受けることができました。

現地のビレッジヘッドマンたちは、なけなしの自分たちの村の資金をかき集め、購入できるだけの屋根用のトタン板も準備してくれました。

また、両替所でのレートも良かったため、予算の都合上ブロックで塞いでしまう予定だったはずの窓の追加設置、ベンチの追加作製、床をモルタルで塗ることも可能となりました。

施行に関しては、JICA 専門家からのアドバイスをもとに、担当ヘルスワーカーや大工と打ち合わせを重ね、彼らの持っている技術を最大限に生かして着工へと進みました。

現地には、大型重機も無くすべて手作業による施工です。修繕作業員たちは、重い材木も人力や牛車で運び、近くに井戸も無くバケツで水を運んでセメントと砂を練ってのモルタル作りはもちろん、昼食は現場において自分たちで作って食べて、作業に取り組んでいました。また、ボランティアで作業のため、本来の仕事に支障が出ないように、土日に修繕作業を実施していました。

7月の乳幼児健診日には、集まる母親たち全員が土煉瓦を運ぶのを手伝い、地域一丸となって修繕に作業に参加していました。

地域の冠婚葬祭が作業日に重なることもたびたびあり、また、大工の見積りりの不手際もあり、工期に遅れが生じてしまいました。しかし、焦らず確実に施工することを伝えつつ、完成期日を延長しつつも完成日を必ず守ることは毎回伝えていました。

この修繕作業で一番気がかりだったのは、現地修繕作業員たちの安全です。屋根の高さは、高い所で4.2mもあるため、高所作業中にバランスを崩して転落でもしたら大きな怪我につながります。幸いにも彼らは安全第一で、しかも彼らの落ち着いたペースで作業してくれたため、誰一人怪我することなく、大きな事故にも至りませんでした。

毎回の進捗状況の確認では、現場に行くたびに作業員や住民たちから、「Yewo chomene. (イエオ チョマーネ) / Tawonga chomene. (タオンガ チョマーネ)」と感謝され、ヘルスポストを修繕できることにたいへん喜んでいました。これは現地語であるトゥンプカ語で「Thank you very much.」を意味し、「ありがとう、本当にありがとう。」と私に対して握手を求めてくる住民もいました。そのたびに、支援してくださった日本人の皆がマラウイの人たちの健康を願っていることを伝えました。

このプロジェクトは、ホレラ地区に、天候に左右されず、安心して乳幼児健診を受診できる機会と場所の提供、ひいては地方の小さな地区に住む乳幼児に対しての総合的な健やかな成長を支援すること、ただ支援を待っているだけではない住民たちの自助努力に力添えをしたく、ヘルスポストの環境整備を支援したいために計画しました。

マラウイ人からは、挨拶代わりに「Give me money」という言葉をかけられることが良くあります。また、「Malawi no money」、「Malawi is poor country」と国を代表するような言葉かけもたくさん聞くこともあります。お金が無いから何もできなというわけでもないと思いますが、金銭の貧しさが挨拶を忘れてしまうような心の貧しさを作り上げるのは良くないと思っています。

しかし、ホレラ地区のマラウイ人たちは、ほんの少しの手助で、地区担当ヘルスワーカーを中心にビレッジヘッドマンたちが修繕作業の地域会議を行い、住民たちはボランティアでしかも手作業でも修繕をやり遂げてしまう実行力があります。また、当初の工期や完成日より遅れながらも地域一丸となって完成させたこのプロジェクト完遂の実績は、他の地域のマラウイの人たちの見本となる地域だとも思いました。

これからは、完成したヘルスポストの定期的なメンテナンスを継続し、数年後に再度マラウイを訪ねた時には、ヘルスポストを有効活用することで、子どもたちが健やかに育ち、地域住民が健康に生活してもらいたいと思っています。

## 6. プロジェクト概算書

### 収入

	項目	金額 (現地通貨)	金額 (日本円)
1	小さなハートプロジェクトによる支援金	MK1,025,600-	¥145,710-
2	被支援者負担額		
3	飯田富美恵様・小池かつよ様	MK14,080-	¥2,000-

4	JOCV 負担	MK9,520-	¥1,353-
5			
	収入合計	MK1,049,200-	¥149,063-

支出

	項目	金額（現地通貨）	金額（日本円）
1	材木	MK406,400-	¥57,737-
2	トタン板・釘、南京錠等	MK188,000-	¥26,709-
3	交通費等	MK42,000-	¥5,968-
4	ドアフレーム4・窓枠4・シャッター4	MK92,000-	¥13,071-
5	ドア4・窓枠2・シャッター2	MK180,000-	¥25,573-
6	ベンチ15	MK49,500-	¥7,033-
7	セメント	MK80,400-	¥11,423-
8	蝶番24・かんぬき24等	MK10,900-	¥1,549-
9			
10			
11			
12	現地事務費（報告書作成・写真・現像費等）	MK0-	¥0-
	支出合計	MK1,049,200-	¥149,063-

換算の基礎となったレート（現地通貨とUS\$または円） @MK1,000=¥142.07

\*上記に書ききれない場合は、別紙にて報告してください。

From: Holera Health Post  
% Emukwani Health Centre  
P.O. Box 31  
Mzimba North  
Malawi

28th August 2019

TO : The Supporting Organisation  
Of JOCV  
Small Heart Project

Dear Sir/Madam

COMPLETION OF UNDERFIRE CLINIC SHELTER REPAIR  
AS PER PROPOSAL FINANCIAL FUNDING.

I hereby write to let you know that repairing  
of underfire clinic shelter roof as per proposal  
financial funding has come to the completion.  
In addition to the roof, doors, windows and  
flooring has been done to high quality standard.

The community surrounding Holera Health Post are  
very thankful for both financial and technical  
support rendered during the whole process in  
repairing the underfire clinic shelter. However,  
there are other construction works which needs  
to be done like: Plastering of the wall and  
drainage system.

Below are signatories of some of local leaders  
and influential community members confirming the  
completion of the underfire shelter.

A. G. Mwanthwali - carpenter

Reuben Nkhosho - chairperson

Nixon Mavuto Mvula - Secretary

Muluzuzans (G.V.H Magezans Khongwe - Khongwe)

The going out of Naofumi to his home country should not end the cordial relation between the community of Holera and JOCV but build up as still we have another project of house to start soon after completely finishing up the drains and plastering.

We once again thank you very much.

Yours faithfully  
Binford Kasunde  
Health Surveillance Assistant.

ホレラ ヘルスポスト  
エヌクウェニヘルスセンター  
マラウイ ムジンバ北部 P.O.BOX 31  
2019年8月28日

協力隊を育てる会 小さなハートプロジェクト様

### 乳幼児健診会場修繕工事完了報告

乳幼児健診会場（以下、ヘルスポスト）の屋根の修繕費用支援によって、修繕工事が完了したことを報告し、感謝申し上げます。

さらに、屋根の他にも、ドアや窓もつけられ、床も修繕することができました。

ホレラ地区住民は、ヘルスポストを修繕する全過程で、皆様からの費用と秘術の支援に大変感謝しております。今後は、壁の上塗りと排水システムの左官工事の予定です。

以下は、ヘルスポストの屋根の修繕完了を確認した、ホレラ地区のリーダーやコミュニティメンバーの署名です

大工 Anuel Gochi Mnthali  
ホレラ地区議長 Reuben Ndwovu  
ホレラ地区議長秘書 Nixon mavulo Mvula  
村長代表 (Magezana Tchongwe 村) Muluwuzana Tchongwe

猪狩尚史さんが日本へ帰国することで、ホレラ地区と青年海外協力隊との関係が終わるわけではありません。ヘルスポストの追加工事を仕上げた後、私たちはこのヘルスポスト利用の次の計画にも励みます。

今回のご支援、本当にありがとうございました。

ホレラ地区ヘルスワーカー  
Binford Kasonda